

たぐすい

TAKUSUI
No. 668

6

June. 2012

発行 財兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



淡路島のアオリイカ

Report 「ひょうごはりま薰黒」を採苗登録

～兵庫県とJF兵庫漁連が開発～

淡路島内でアオリイカ産卵床の設置に取り組みます！

～アオリイカ資源の増加に向けた取り組み～

兵庫県水産議員連盟とJF組合長、懇談会で再確認

NEWS 各地で総会が開催される！

「ひょうごはりま薫黒」種苗登録へ

～県水技センターとJF兵庫漁連のり研究所が開発～ JF兵庫漁連兵庫のり研究所

兵庫県水産技術センターとJF兵庫漁連のり研究所は、ノリの新品種「ひょうごはりま薫黒」を開発し、4月には農林水産省に種苗として正式登録されました。

のり研究所では、県水産技術センターと平成18年から、生産者からの要望が強かった黒くて伸びる新品種の開発に乗り出し、毎年、ノリの株を採取・保存している中から、優良な株を十数種類選びました。これらの品種を室内試験や東播・淡路・西播地区のノリ生産者の協力を得て野外試験を実施し、優良品種の選定を行っていききました。その結果、ある品種の昭和63年の株が、他品種と比較して色が黒く伸びが良かったため、この胞子を取り出し、プラスチック内で繰り返し発芽させて、遺伝的に固定させたものを新品種としました。各地区の代表者からなる検討会において、この品種を種苗登録する方向で意見集約され、平成20～21年に室内及び野外試験において品種登録に必要な生育データ等を収集、同



ひょうごはりま薫黒の葉体押し葉

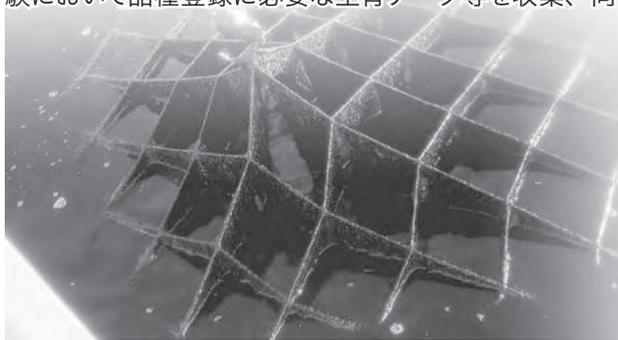


新たなブランドに期待がかかります。

21年に農林水産省に申請し、この4月に晴れて種苗登録されました。

のり研究所 川崎 周作所長は「今回、種苗登録されたひょうごはりま薫黒は、漁場によっては製品に穴が開き易いといった欠点もあるが、色が黒くて伸びるといった優れた特性から、兵庫海苔の特徴をいかせる品種だと考えている」と話し、今後、県内のノリ生産者に提供されるほか、JF兵庫漁連のノリ採苗において「ひょうごはりま薫黒」の欠点を補う複数の品種と混ぜて「優良品種混合」として使用していく計画です。

全国有数の生産量を誇る兵庫のノリの新たなブランドになってくれればと期待するとともに、JF兵庫漁連は今後も県と共同でノリ生産者の儲かる品種の開発に向け取り組んでいきます。



第37回 兵庫県漁民物故者合同供養祭開催 JF兵庫漁連



6月11日（月）高野山大学松下講堂並びに慰霊塔前において「第37回 兵庫県漁民物故者合同供養祭」が、漁業関係者ら197名の参列のもと、厳かに執り行われました。

開式にあたり、平成23年度中に物故された157柱の芳名簿が、遺族代表の堀 嘉伸さん（JF南あわじ）と山本 勝子さん（JF但馬）の手で祭壇に奉納されました。主催者代表の挨拶では、JF兵庫漁連 山田 隆義会長より「本県が全国有数の水産県として今日あるのは、ここに合祀されておられますご尊霊のご努力の賜物であり、在りし日の輝かしき業績に対し深く敬意を表しますとともに、残る我々が力を合わせて豊かな漁場を取り戻し、次世代に引き継ぐことを誓います。」として在天の諸霊にご加護を願われました。続いて来賓を代表して兵庫県知事（県水産課 藤澤 崇夫課長 代読）、JF全漁連会長（JF全漁連 古関 和則専務理事 代読）から追悼のことばをいただきました。

その後、読経のながれるなか、主催者、ご遺族、来賓、一般参列者の順に焼香が行われ、JF兵庫女性連 森 武美会長から全参列者に御礼が述べられ、供養祭は厳粛のうちに滞りなく終了しました。

これまでに合祀されたご尊霊は今回の157柱を含めて11,669柱となりました。心からご冥福をお祈りいたします。



今年度も淡路島内でアオリイカ産卵床の設置に取り組みます！

～資源保護へ一般釣り人にもリリースなど協力依頼～

洲本農林水産振興事務所

淡路では平成19年度～平成21年度の3年間、南あわじ市内の各JFを中心に、柴を用いた産卵床を設置し、アオリイカ資源増大を図ってきましたが、平成22年度からは(社)淡路水交会在主体となって、島内全域に区域を拡げて取り組んでいます。その産卵床の設置が今年度も始まり、5～6月に島内各地で順次設置していきます。

毎年、設置した柴にはアオリイカの卵塊はもちろんモンゴイカの卵塊、稚ナマコなども確認されており、メバルなどの仔稚魚の蛸集効果も確認されています。このように産卵床設置の効果が少しずつ実感できており、今後、漁獲量の増加につなげていくためには、取り組みを継続することが必要です。

一方、遊漁者等による産

卵期の小型アオリイカの採捕は、資源への悪影響が懸念されており、淡路市、洲本市、南あわじ市は、島内沿岸でアオリイカ釣りをする人に向けて「7月～9月の間のリリース」、「アオリイカの胴長が15cm未満のリリース」への理解と協力をお願いする啓発看板を設置し、漁業者による資源増大の取り組みや、資源保護についての普及啓発活動に取り組んでいます。

また、このような普及啓発活動は、島内外の釣り人にも周知していく必要があるため、洲本農林では、釣り人への啓発ポスターを作成し、島内外のつり餌・釣具店等へ配布して、アオリイカ資源増大の取り組みへの理解と協力について広く啓発していく予定です。



柴を使った産卵床設置の様子



アオリイカ資源の増大を期待して…

「サバイバル訓練」開催！

～柴山漁港で漁業者が訓練～

海中転落事故を想定し、転落時の注意点や救助方法などを学ぶ『サバイバル訓練』が6月2日(土)香美町香住区の柴山港で行われ、JF但馬柴山支所の組合員ら約80人が参加しました。

この取り組みは、作業用救命胴衣等の正しい装着・整備方法を熟知するとともに、膨張式救命いかだの正しい操作方法や海中転落者の適切な救助方法、乗組員が非常時において生き抜くための知識を身につけることを目的とし、船員災害防止協会の主催で行われています。

訓練では、神戸運輸監視部 筒井課長をはじめ各担当者から、各種救命胴衣の紹介、救助に使用する縄はしごの結び方、転落した際に救助を待つまでのポイントや救助方法に加え、転落時には『絶対に生きる』と思いつけることが大事』などの説明が行われました。

その後、実際に漁業者が救命胴衣

を着用し海に飛び込み、転落者を助ける訓練や、自動膨張式の救命いかだを海中に投下し乗り込む訓練の他、救命いかだの構造・装備品の説明が行われました。また、落下傘付信号・信号紅炎・海面着色剤を参加者が実際に使用する訓練も行われ充実した内容となりました。この日の訓練を機に一層海上安全に対する意識を高め、救命率向上につながることを期待します。



救命胴衣の使用方を説明する筒井課長

救命いかだの実演



協会の設立趣旨をふまえて 瀬戸内海の各種施策のコーディネータをめざす

～(社)瀬戸内海環境保全協会総会～

(財)兵庫県水産振興基金

(社)瀬戸内海環境保全協会(会長・井戸 敏三兵庫県知事)の平成24年度通常総会および特別講演会が5月24日(木)、神戸市中央区のラッセホールで開催され、会員ら地方公共団体、漁業団体等の関係者約180人が出席しました。総会に先立ち、井戸会長は「きれいな海から豊かな海へ、瀬戸内海再生に向けて140万人の署名簿を力に議員立法をめざした。政権交代等で中断しているが何とか議員連盟を立ち上げたい」としたうえで、「当協会、EMECS、知事市長会議らが同じ方向に向け

て活動して行きたい」と挨拶。来賓祝辞のあと、本年度の瀬戸内海環境保全月間ポスター表彰が行われ、最優秀賞に輝いた徳島県の小学生・三浦 友里江さんに環境大臣から表彰状が授与されました。また、優秀賞2名、佳作7名の皆さんに井戸会長から賞状等が授与されました。総会は1号議案・平成23年度事業報告、収支決算承認の件など7議案が上程され、総て原案通り承認されました。

一方、特別講演会は「水質汚濁防止法の改正と最近の動向について」と題して、吉田 延雄環境省水・大気環境局水環境課長が、昨年4月に行われた法改正の背景とその内容、今年6月から施行された地下水汚染の未然防止対策、また、東日本大震災の被災地におけるモニタリング調査の状況などが説明されました。



表彰される三浦さん



吉田課長の講演に耳を傾ける

6月は「瀬戸内海環境保全月間」

瀬戸内海は、私たちが祖先から継承した尊い風土です。かつて、この海は紺青に澄み無数の鳥影を映して、秀麗多彩な景観を世界に誇っていました。

また、ここには、豊富な海の幸と白砂の浜、そして緑濃い里に育まれた豊かな人々の営みがありました。

しかし、世代は移り変わって、瀬戸内海は産業や交通の要衝となり、その面影は次第に薄れ、私たちの生活環境は大きく変化し、透明度は改善されたものの、水産動植物が息しにくい環境になってしまいました。

いま、私たちには、かつて「宝の海」と称された瀬戸内海が有していた素晴らしい環境を健全な状態に回復・保全し、多様な生物が生産される、豊かで美しい海として再生を図るための取組が求められています。

「瀬戸内海環境保全月間」は、環境省が毎年6月に実施する「環境月間」にあわせ、国、関係府県市、関係各種団体、関係企業などとの連携・協力のもとに、瀬戸内海の保全に関する広域的なキャンペーン活動を展開してきたところです。(趣旨より一部抜粋)

今年度も、ポスターやリーフレットの配布、展示物等によって、瀬戸内海の環境保全に対する意識啓発と行動の輪を広げる取組みが、6月末まで実施されています。

**瀬戸内海にゴミは出さない。
揚がったゴミは持ち帰る。**

**皆で取り組めば、きっと戻ります。
青く豊かな海。**

期 間 平成24年6月1日(金)～30日(土)
までの1ヶ月間

主 唱 社団法人 瀬戸内海環境保全協会

実施主体 関係府県・市、関係各種団体、関係企業等



“知らない”物は食べない消費者風潮
「魚は知らない物になりつつある?！」

もっと魚食の裾野を広げ、漁業の大切さの発信を!!

兵庫県水産議員連盟とJF組合長、懇談会で再確認



行政から兵庫県
吉本 知之副知事が挨拶

兵庫県議会の超党派議員で構成する兵庫県水産振興議員連盟とJF組合長の懇談会が、6月12日(火) 神戸市内のホテルで開催され、県議会議員、漁協関係者ら97名が出席しました。

長引くデフレ経済や円高の進行で国内景気が低迷するなか、現下の漁業もまた、燃油の高騰、魚価安、漁場環境の悪化等々で漁家経営は厳しさを増しています。加えて、政府は食料安保という重要な政治課題に触れないまま、TPP交渉参加や日中韓FTA交渉に積極姿勢を示しており、農漁業者への経営圧迫が一層懸念されるところです。今回の議員連盟との懇談会は、こうした深刻な課題を少しでも解決を図ろうという目的で開催されました。

この会は、第1部に研修会、第2部で意見交換会、第3部は懇親会の3部構成で進められました。第1部では「新瀬戸内海再生法制定に向けた取り組み」についてJF兵庫漁連 突々 淳参事から情勢報告されたあと、

水産庁増殖推進部 上田 勝彦情報技術企画官から「漁業の役割と魚食の重要性について」の基調講演があり、第2部ではこれら講演をもとに意見交換が行われました。出席者らは、瀬戸内海環境再生の必要性や、豊かな兵庫の水産物の素晴らしさなど、もっとも県民が漁業に関心をもつよう漁業者だけでなく、行政、議会も情報発信に努力することや、消費者へのアプローチも仕掛けを工夫し関係者の一人一人がセールスマンとなるよう意識改革が必要といった意見が出され、研修会、意見交換会を通じて意識を新たにしました。第3部では地区毎に議員と組合長がテーブルを囲み、膝を交えて和やかに懇親会が進められ、実のある会合となりました。



上田情報技術企画官の講演風景

「豊かな海」の再生に向けて… ～兵庫県豊かな海創生支援協議会 通常総会を開催～

兵庫県豊かな海創生支援協議会

兵庫県豊かな海創生支援協議会は、5月17日(木)兵庫県水産会館にて、会員13名全員が出席のもと、平成24年度通常総会を開催しました。

開会后、山口 徹夫会長(JF兵庫漁連専務理事)は「平成21年度から5年計画で始まったこの豊かな海創生支援事業も4年目を迎え、全国的に例を見ない『砂』に特



「官民一体となった取り組み推進を」と近藤室長

化した海域環境改善が注目を集めるところとなり、今後の取組にも期待が寄せられている。また、『真に豊かな海の再生』を目指し新たな『瀬戸内海再生法』の制度化に向け、皆様のご協力をお願いしたい。」と挨拶、続いて県水産課 近藤 敬三資源増殖室長から「県では、『豊かな海の再生』を施策推進のテーマにハード・ソフト一体となった施策を实



施する中で、漁業者が主体的に取り組むこの事業を、漁場環境改善の重要な事業と位置付けており、今後とも官民一体となった取り組み推進に一層の協力をいただきたい。」との挨拶がありました。

議案審議では、平成23年度事業報告及び収支決算、平成24年度事業計画及び収支予算等が承認されたほか、本年度は、国の予算削減に伴い実施要領等の改正があり、その経過並びに活動規模の細分化による事業費算出方法の改正が報告されました。



平成24年「JF共済」職員会議を開催

共水連兵庫県事務所

兵庫県JF共済推進本部(共水連)は、5月24日(金)神戸ポートピアホテルにおいて「JF共済」職員会議を開催しました。

当推進本部では、毎年4月に漁協の管理職員並びに実務担当者を対象に1年間の活動報告及び次年度の活動計画等についてご報告しており、今年度は、県下24共同事業組合の職員など総勢38名の出席がありました。

会議の冒頭、吉岡 修一本部長(JF但馬)に代わって磯田 政志所長が挨拶をし、厳しい共済事業環境の中であって、1年間鋭意推進活動にご尽力いただいたことに対して感謝の言葉を述べ、平成24年度においても昨年度と同様、より多くの組合員への普及推進活動を通じて、各組合の数量目標の必達と共済事業実施基盤のさらなる強化を図っていくことを要請しました。

続いて研修会では、元TBSアナウンサーである石川 顕氏を講師に招き「一流の人々から学んだもの～真のリーダーシップとは～」と題して講演が行われました。スポーツ選手や著名人との太いパイプを生かした実話を基に、

リーダーとしての資質、言動、姿勢などに加え、すぐに役に立つ社会人としてのマナーやスピーチ術など、職場における実践的かつ実効性のある話が、アナウンサーらしい滑舌のいいトークで繰り広げられました。研修会終了後の懇親会では、実務者同士の情報交換が行われ、終始和やかな雰囲気の中で閉会となりました。



石川氏の講演風景

平成24年度通常総会を開催

共水連兵庫県事務所・兵庫県漁業信用基金協会

共水連兵庫県事務所と兵庫県漁業信用基金協会は、6月7日(木)明石市内のホテルにおいて、それぞれ平成24年度通常総会を開催しました。

共水連兵庫県事務所からのメッセージ

平成23年度活動報告及び平成24年度活動計画についてご審議いただき、原案通り可決決定されました。また、共水連への増資についても、当初の増資計画を達成することができましたことをご報告いたしました。増

資についてご理解いただきました正会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

兵庫県漁業信用基金協会からのメッセージ

会員並びに関係団体より多数の皆様にご出席いただき無事全ての議案が可決決定されました。

協会の使命を果たすべく、役職員一同いっそうの努力をはかって参ります。今後ともご支援ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



共水連の総会風景。また、兵庫県漁業信用基金協会総会も同じ会場で行われました。

山田 隆義氏が再任 ～任期満了に伴う役員改選で～

兵庫県内海漁船保険組合

6月5日(火)神戸市内のホテルにおいて、当組合の平成24年度通常総代会を開催しました。開会にあたり山田 隆義組合長は、厳しい漁業状況の中、全船義務加入継続いただいたことに対し、漁業協同組合長、漁船保険担当役職員のご理解とご協力の賜物であることに衷心より感謝を申し上げます。また、東日本大震災後、巨大災害に対応できる組織体制が必要であることから、全保険組合と漁船保険中央会を一元化し、統合された組織に再編する動きがあることを報告されました。

引き続き、来賓代表として県水産課 藤澤 崇夫課長、漁港課 林 健児課長の挨拶があった後、播磨 孝次総代(JF五色町組合長)を議長に選任し、平成23年度業務報告書の承認、24年度事業計画書、役員報酬額について全会一致で可決承認されました。また、本年度は役

員改選の年であり、新役員13名が選任されました。

再任された山田組合長は「漁船保険が今後も引き続き漁業者のための保険として事業を運営するには、関係各位の皆様のご支援を賜りながら、前田 吉計副組合長、役職員が一致協力して事業を推進していくことが大事」と挨拶をされました。



水産資源の保護育成、森づくり、魚食普及など 夢と希望をもって島の漁業振興に期待を

(社)淡路水交会

6月1日(金)、洲本市内のホテルにおいて(社)淡路水交会(前田 吉計会長、20団体)の通常総会が、会員漁協長と県、議会、系統団体等から約40名が集まり開催されました。開会に先立ち、前田会長は「近年、海水温の上昇などで魚の道が変わってきたのでは?先日、南浦で4トン近い鯨が網にはいるという珍事があり、私の長い漁師生活で初めての経験だ。海の変化を実感している。」と前置きして「水交会は現職の漁師ばかりであり、夢を持ってアオリイカの産卵床事業など資源



増殖の取り組みに期待したい。また、県漁連が先導している瀬戸内海環境再生法の整備運動にも積極的に協力してゆく」と挨拶。続いて、来賓を代表し兵庫県議会 永田 秀一議員、藤原 道生淡路県民局長、中田 勝久南あわじ市長、JF兵庫漁連 山口 徹夫専務から挨拶があった後、JF由良 山家 昇組合長を議長に選任し議案審議が行われました。審議に附された平成23年度事業報告、収支決算書等の件、及び監事1名の補充に関する件の2件の議案は原案通り承認されました。

皆様の漁業のために、一層の活動を… ～大角会長が本年度の活動を誓う～

摂津播磨地区漁協青壮年部連合会

5月26日(土)、兵庫県水産会館において、摂津播磨地区漁協青壮年部連合会(13会員部員計273名)の平成24年度通常総会が開催されました。冒頭、大角会長は「昨年度は、皆様の漁業のために役立てればと、様々な取り組みを行ってきた。今年度も精力的に実施していきたい」と挨拶。続いて、平成23年度の事業報告、平成24年度事業計画の他、「ガザミふやそう会」の報告・事業計画などの議案が審議され、すべて原案通り承認されました。また、退任に伴う役員選任が行われ、新たに2名が役員に就任し、船越 孝一氏(JF姫路市)が副会長に選ばれました。



宮部課長の技に注目が集まる



岡田研究員の講演

総会終了後は学習会として、JF明石浦 宮部 博之販売課長と、県但馬水産技術センター 岡田 佑太研究員より「魚を美味しく保つには」と題して講演がありました。宮部課長からは、実際に活鯛を使って、しめるところから血抜き、神経抜きまで実践して頂き、参加者はその手際の良さと技に見入っていました。岡田研究員は、活け越し、活け締め、血抜き等について丁寧に講演して頂き、参加者は熱心に聴き入っていました。

「淡路の魚」のPRに努める

～さらなる取り組み強化を図る～

淡路地区漁協青壮年部連合会

5月25日(金)洲本市内のホテルにおいて、淡路地区漁協青壮年部連合会(19会員部員計272名)の平成24年度通常総会が開催されました。議事は山口副会長(仮屋漁協青壮年部)を議長に選出し進められ、平成23年度の事業報告、平成24年度事業計画などの議案が審議・承認されました。新年度事業計画として、栽培漁業・資源管理型漁業の推進、環境保全への取り組み、「淡路の魚」のブランド化など7つの重点事項を実施することが確認されました。また、退任に伴う役員の補



大野主査の講演

欠選任がおこなわれ、新たに5名が役員に就任し、互選によりJF淡路島岩屋 山崎 大輔氏が副会長に選任されました。

総会終了後の学習会では、県水産課漁政係 大野 泰史主査より「さて、資源管理どうする?」と題した講演があり、瀬戸内海で行われている様々な資源管理型漁業の紹介と、効果等について分かりやすく講演して頂き、参加者は熱心に聴き入っていました。

防災意識の大切さを確認

淡路地区漁協女性部連合会



挨拶に立つ森会長

5月19日(土)淡路水産センターにて、淡路地区漁協女性部連合会通常総会が開催されました。

12会員のうち、11会員(1委任状)34名と淡路県民局 新岡農林水産振興事務所長、(社)淡路水交会 前田

吉計会長、JF兵庫漁連 山口 徹夫専務はじめ来賓10名の出席のもと、平成23年度事業報告及び収支決算、同24年度事業計画及び収支予算が承認され滞りなく終了しました。

総会の後、NPO法人ひょうご地域防災サポート隊理事 西垣 嘉夫氏を講師に迎え、「守れ!いのちを ～東日本大震災などを教訓に～」をテーマに、東日本大震災時の映像などを見て防災について学習しました。

災害を防ぐこと(防災)は難しいが、災害を減らすこと(減

災)を目指して、「自分の命、地域を自分で守る」ために、自分の住んでいる地域の地理や歴史を知ること、災害のメカニズムを知ること、自然や社会の環境変化を知ること、判断力を身につけること、何よりもこのような事は何度も繰り返して学習することの大切さを学びました。

東日本大震災以降、全国で地震活動や火山活動が活発になっているという報道もあり、淡路でも津波被害が心配されるなか、女性部の皆さんの関心はとても高く熱心に受講されていました。

学習会の様子



組合職員の頑張りに期待

淡路漁協職員協議会

淡路漁協職員協議会（浅田 浩文会長・JF浅野浦、会員119名）は、6月2日（土）に洲本市内のホテルで平成24年度通常総会を開催しました。総会に提案された議案は、平成23年度の事業報告と決算、平成24年度の事業計画と予算等計4本で、すべて承認されました。規約の変更も行われ、平成25年度から役員は6人になります。これは東浦地域から選出されている現役員3人を他地域と同様に2人にするものです。

平成23年度の事業は、研修事業として水産会館での料理実習（魚を使ったイタリア料理）と岡山県備前での陶芸体験を実施したほか、JF兵庫漁連 山口専務と共水連 磯田所長を講師に招いて「豊かな海」や保険概況をテーマにした系統懇談会が行われています。

平成24年度も漁協基盤の強化を目指して、講習会・研修会や親睦行事などを実施する予定で、具体案を企画していくことが報告されました。

議案審議に先立ち、浅田会長の挨拶と淡路県民局、淡路水交会、JF兵庫漁連の出席者による来賓祝辞のほか、淡路水交会長から漁協職員に対し功労者表彰が行われました。この中で、前田 吉計水交會会長は「淡路島周辺の海が明らかにやせている。漁業の先行きが見えないが、組合職員の頑張りに期待する」とのエールを寄せました。

総会終了後は、意見交換会が開催され、各テーブルでは漁協運営に関する現状と課題などが活発に話し合われていました。

大輪田塾 第8期生 募集しています。

平成17年に開講された「大輪田塾」。めまぐるしく変化する社会・経済情勢に対応し、将来にはJF組織を支えていける人材育成を目的に始まり、すでに卒業生は地域のリーダーとして活躍されています。

講義は、県・系統団体をはじめ多彩な講師陣による月1回の座学を中心に、外部研修や事務局が適当と認めた会議等も聴講できるといった幅広い知識の習得が可能なカリキュラムを組んでいます。

この「大輪田塾」では現在、10月に入塾される第8期生を募集しています。皆様のご応募をお待ちしております。

◎応募資格

① 原則として、漁業歴10年以上かつ45歳未満

② 原則として、JF関係役職員歴10年以上かつ45歳未満

のいずれかに該当する者で、所属する組織代表者の推薦を受けた者

◎在籍年限

原則2年（最長3年）

募集は8月末に締切、その後、面接を行い審査委員会の選考を経て、10月に入塾式を行います。（詳しい募集要領は各JF・団体宛に通知させていただきます。）

問合せ先（事務局）

〒673-0883 明石市中崎1丁目2-3
財兵庫県水産振興基金
TEL 078-919-1331



H23. 6. 21 大阪湾水先区水先人会にて「大型船シミュレーター体験実習」（実際に操作しました）



H23.11.22 県水産課 小林副課長より「兵庫県の漁業概要について」

大輪田塾のパンフレットを作りました！
（各総会等でもお配りしています）



仕事の質をアップさせよう!

～JF兵庫漁連が若手職員対象に研修会開催～

JF兵庫漁連

平成23年度第1回職員教育研修会が、5月18日(金)兵庫県水産会館で開催され、対象となった入会7年目までの職員23名が受講しました。

この研修会は、今年をはじめ企画されたもので、入会7年目までの若手職員に、これまでの自らの仕事の進め方について見つめなおしてもらい、より質の良い仕事に繋げていくことを目的に開催されました。

「自立と自律を考える」と題した研修には、(株)インソース 井原 準哉氏を講師に迎えて、丸1日かけて行われました。午前の部は、個人・グループワークを織り交ぜて、上司と接する目的や、信頼関係の重要性、報連相のポイントについて学び、午後の部は、仕事や行動を変える必要性、時間管理の心構え、仕事に着手する前の取組みを学びました。他には、自らの仕事を重要性と緊急性の観点から洗い出し、その中で「重要だが緊急でない仕事」は、質をアップさせる要素が多数含まれていることから、無理やり時間

をつかって進めていくことの重要性を学びました。最後に「仕事は纏めてやる」、「事前準備が重要」、「整理整頓は能率UP」等、すぐに実践できる内容を確認し終了しました。

研修を受けた職員からは「うまくいかないことでも迅速に報告して、改善策を早く考える」「自分の意見ももって質問する」「仕事は前倒しでやる」等、とても前向きな感想が多く聞かれ、今後、各部署で実践し成果につなげてくれることを期待できる研修となりました。また、終了後には休憩室で懇親会が行われ、他部署間の職員の良い交流の場となりました。



平成24年度

応募締め切り 平成24年9月14日(金)

ひょうご海の子作品展のご案内

絵画・
作文

県下の小・中学生の皆さんに海を愛し、美しく豊かな海を守ることの大切さや漁業に関する関心と理解を高めてもらうため、「絵画」と「作文」を募集しています。

あなたの目から見た漁業や漁師さんのこと、漁港や市場の様子、そして海の様子など、「漁業」と「海」を自由な発想で表現してみませんか? たくさんのご応募をお待ちしています。

応募方法

応募対象: 県下の小・中学生

応募作品: 絵画と作文の2部門

○絵画 作品の大きさは60cm×45cm以内(四つ切推奨)

○作文 400字詰め原稿用紙2～3枚

小学1・2年生は1～2枚程度/

小学3年生以上は2～3枚程度

※本人の直筆でない作品については、審査対象外としますのでご注意ください。

題 材: 「漁業」や「海」

提 出 先: 作品は、通っている学校、または直接提出してください。

○作品の裏面右下に、必ず応募票を貼って下さい。

○作品はこれまでどこにも応募していないもので応募してください。

○応募作品はお返しいたしません。

(応募作品の著作権はすべて主催者側に帰属するものとします。)

応募者全員に
記念品を贈呈します。

入 賞

兵庫知事賞

全作品の中より1点

兵庫県教育長賞

同上

JF兵庫漁連会長賞

全作品の中から計2点

JF兵庫女性連会長賞

同上

農林中央金庫大阪支店長賞

同上

JF兵庫信漁連会長賞

同上

佳作

※絵画部門入賞作品については、展示予定となっております。

※絵画部門上位10作品は、全国海の子絵画展に出品します。

※作文部門入賞作品については「海の子作文集」を作成する予定です。

※予期なく変更する場合がございますのでご了承ください。



(お問い合わせ)

JF兵庫信漁連 (営業部企画推進課: 担当水橋)

〒673-0883 明石市中崎1丁目2番3号

TEL 078-919-1210 FAX 078-919-1211

【主催】JF兵庫漁連・JF兵庫女性連

【後援】兵庫県・兵庫県教育委員会・JF兵庫信漁連・
財兵庫県水産振興基金・共水連兵庫県事務所・
農林中央金庫大阪支店

こうべ旬菜 流通科学大学の学食に

JA兵庫六甲こうべ旬菜部会^{*1}は4月16日(月)より、流通科学大学(神戸市西区学園西町)の学生食堂「RYUKADINING」へ野菜提供を始めました。この取り組みは、同大学の学園祭で神戸市西区産の野菜・果物の「朝市」が開催されたことがきっかけで、行政、流通科学大学、同JAこうべ旬菜部会、同JA神戸西宮農総合センターが連携し、市内の農畜産物への理解を促し、消費につなげていくため実施されました。こうべ旬菜は、1日限定20食500円の日替わりメニュー『流科ヘルシーUPメニュー』(500kcal)や、サラダや煮物などにも使用されます。

取り組み初日には、さばのねぎ味噌焼き、キャベツのごま酢和え、南瓜のスイートサラダなど5品目の日替わりメニューが並び、メニューを食した学生からは「野菜の甘さやシャキシャキとした歯ごたえもあるのでおいしい」「こうべ旬菜のことを知らなかったが、興味を持った」といった感想が出ていました。

今回の取り組みを第1ステップと位置付け、今後、同大学の「社会連携プログラム^{*2}」の一環として、「神戸市内農水産物を活用した商品」をテーマとした作品を学生から募集し、優秀な作品は商品化(試験販売)する予定です。

※1 神戸市西地区の生産者が、神戸市内で環境保全に配慮した野菜を生産し、神戸ブランド野菜推進委員会が認定した野菜「こうべ旬菜」として販売しています。

※2 実学的な学びを重視する流通科学大学が「企業」「行政」「地域」などと連携して、新商品を企画、開発、商品化するプログラム



栄養士監修の、栄養バランスの取れた日替わりメニュー

祝賀に350人! 福祉介護センターてがらオープン

姫路医療生活協同組合では、『福祉介護センターてがら』の建設が完了し、3月20日(火)の春分の日に開所式を行いました。

会場となった『福祉介護センターてがら』の広い駐車場に、350人が集いました。記念式典は姫路市立高丘中学校吹奏楽部による演奏で始まり、オープニングにふさわしい晴れやかな音色が会場に響き渡りました。

施設内の見学では、居心地の良いおしゃれな和の空間の演出や季節を感じられる飾りつけをご覧になり、ご参加の方々からは「こんなところなら家に居るより遊びに来たいなあ」と、職員と談笑される姿も見られました。

地元では、建設が決まってから『つくる会』を結成して、事業説明会、地域総訪問活動、介護フェア等さまざまな方法で、地域へ『福祉介護センターてがら』をアピールしてきましたが、今日の開所式が、最後の力の見せどころ。開所式のお知らせや準備、来場者の送迎、歓迎のお料理など大奮闘。炊込みご飯とぜんざいを手作りして、参加者をもてなしました。あわせて姫路名物まねきの駅そばも振る舞われました。また、津軽三味線『須々木会』の演奏や踊りで祝賀ムードを盛り上げました。



多くの人で賑わう「福祉介護センターてがら」の開所式

旬に想う

写真と文
遊方子

都市の顔

◆国道2号線の横断歩道でボタン式信号を押して待っている。何時まで待つのかと不安になるほど、クルマの列が続いている。獣の唸りのような音を響かせ通過して行く。この国道は商業地や住宅地を縫って通っているから、道路沿いの住人はずっとこの音の中で暮らしていることになる。さぞ、苛だたしいだろうと思うが、それとも諦め切って馴れ親しんだ状態なのだろうか。信号は暫くして青に変わり、車の流れを塞ぎ止め、僅かな人と一緒に歩道を渡った。手押しの車椅子が一台と自転車二台が続いた。短いヤム無く止まった車が、信号が青に変わると先を急ぐように飛び出し、元の轟音を響かせた流れになる。

◆知人の入院を見舞ったが、病室の窓から国道が見える部屋だった。通過するクルマの音が潮騒のように聞こえる。昼間は他の物音に紛れているが、夜半は周辺が静かになり、車道の騒音が一段と大きく聞こえて容赦なく眠りを妨げるといふ。眠りに就いても、何度か目覚めてしまうらしい。音による暴力行為といえる。何故、夜中にこんなにクルマが通るのか。殆どが貨物車だが、乗用車も随分と多い。深夜に何処へ向かうのか不思議な思いで、腹立たしい気分になると嘆く。今の車の増加ぶりは、異

常の域を超えていると、知人の言である。

◆街中に車が溢れている。どんな細道でも車の幅さえあれば、クルマの影が絶えない。一軒に二台の時代になりつつある。あるアンケートに「出来るだけクルマに乗らぬようにしている…」という声もあったが、運転免許を持たない若者は極めて少なく、クルマは生活に深く入り込み、増加一辺倒は《洪水》に譬えられる。街は車の流れで氾濫し、生活を脅かし始めた。高齢者マークを貼る車も目立って多くなった。行政はスムーズな流れを維持しようと躍起だが、交通渋滞は日常茶飯事で、今や都市の一つの顔ともなっている。その傾向は都市部から郊外へと津波の如く拡がって、農村部に激しさが増したようだ。

◆都市の発展には活性化が必要だと、施設を作ってイベントを催す。集客のためには広い駐車場が必須である。車の全盛期からクルマ抜きで人は動かない。このまま増え続ければ空気は汚れ放題となり、詰まるところは環境破壊に繋がる。困窮するのは目に見えている。地球規模で環境問題を考え、汚染防止だ、CO₂削減だと問題にはなっているが、その動きも遅きに過ぎた感じである。排ガス社会から脱却する声に応じ、その代替品がやっと試作から実用化段階に入った。安心して心から喜べる都市の顔を早く見たいものと切に思う。



田ん圃

大輪田塾だより

漁船法と気象について

5月22日(火)に行われた大輪田塾は、「漁船法概要」と「気象について～漁業への気象情報の利用～」の2講座が開講され、塾生・聴講者あわせて15名が参加しました。



山條氏の講義風景



中谷統括代理による講義

まず「漁船法概要」では県水産課漁政係 山條 喜宣氏を講師に迎え、漁船法や関係法令について学んだほか、漁船の登録や検認など身近な内容まで幅広く講義していただきました。

続く、「気象について」では、気象予報士の資格を持つJF兵庫漁連 中谷 明泰 統括代理に、一般的な天気予報から、台風などの低気圧の話、また、様々な天気図の見方までの講義をしていただきました。

どちらの内容も身近なものであったためか、講義終了後には塾生から盛んに質問が出ていました。

表紙の言葉

淡路島のアオリイカ



アオリイカは漢字で「障泥烏賊」と表記し、馬具の障泥(あおり)に形が似ていることから名づけられたといわれています。ちなみにイカの漢字の「烏賊」で、カラス(烏)の賊と書くのは、海面に死んだように浮いているイカを食べようと、舞い降りたカラスに、イカが足を絡ませ、海中に引きずり込んで食べてしまうという中国の故事から付けられたそうです。

淡路島内のJFではアオリイカの産卵床となるパベ(ウバメガシ)を山に植え、切り出した後、海中に設置する取組みを長年続けており、加えて今後は、小型のアオリイカを保護するための、釣り人への啓発活動を展開します。

淡路島で、アオリイカ資源を守るための取組みが、またひとつ始まりました。